

1. 本園の教育目標

・自分との出会い ・仲間との出会い ・神との出会い	- 自分らしさを発揮する - よく考え、主体的に行動する - かけがえのないいのちを互いに慈しみ認め合う - 神を知る	- しなやかでたくましい心と体 - 協力して成し遂げる - 神の愛を受けて平和を創る
---	--	--
 2. 本年度重点的に取り組むテーマ・目標

テーマ: よくみる

目標: 一人ひとりのこどもをよく視、目には見えにくい迷いや願いをよく診、見通しを持ってよく見る
 3. 自己評価 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目

 - 1 ご家庭との連携を密に取ることで、そのこどもの背景を知り、保育者自身の思い込みではなく、こどもの目線に立って物事を感じとり、客観的なより正しい理解をする。 A
(家庭との連携・コミュニケーション力・こども理解・保育者の学びの深まり)
保護者のお気持ちに寄り添いながら、こどもに関する情報を得ることによって、こどもの背景を知ることと、保育者間で園での情報を共有することによって、多角的な視点からこどもをより正しく理解し、客観的な見通しを保護者とも共有することに努めた。
 - 2 こども一人ひとりの興味関心をあそびの姿からくみ取り、こどもが探求を深めることができるように、人的・空間的・物理的により良い環境設定を行って援助する。 B
(環境設定・省察力・保育記録・情報共有)
園児の安全と安心を確保するために、保育者は連携を取りながら、適切な配置を心がけた。また、こどもの興味関心に寄り添って、素材を設置したり仲介したりした。クラス活動では、保育室だけに限らず、最もふさわしい場所を設定できるように連携を取った。
 - 3 こどもが探求を深めようとしている過程で起こる、気持ちの表現方法における課題や、友だちとの関わり合いにおける葛藤を通して、一人ひとりの迷いや願いに着目し、心に寄り添いながら、根本的な課題に向き合うことができるよう導く。 B
(アセスメント・省察力・専門性・保育者の学びの深まり)
「保育者がやるべきこと」を優先するのではなく、「今、こどもがしていること」を観察し、「次にこどもがするであろうこと」を想像して行動することを優先する、アセスメントを心がけて保育するように努めた。今後も、保育内容をパターン化するのではなく、こども一人ひとりの発する言葉や態度や行動に着目し、そこに見えてくるこどもの根本的な課題に対して、一貫した実践を積み重ねていくようにしたい。
 - 4 保育者全員が良い連携を取って情報を共有することによって、こども一人ひとりの状況を正しく把握し、一致をもってより良い対応をする。 A
(チーム保育・コミュニケーション力・情報共有)
保育者間の信頼関係の中で、連絡と報告と相談をしっかり取るよう努めたが、信頼関係が築けているからとは言え、細かい部分の確認も怠らないようにしたい。
 - 5 保育者一人ひとりが、専門的な知識や力や感性を磨くために、向上心をもって日々の保育を振り返りながら学び、主体性を発揮して保育の見通しを持つ。それにより、こどもたちが手ごたえを感じながら意欲をもって活動し、さまざまな機会において成長できるようにする。 B
(専門性・省察力・保育記録・保育者の学びの深まり・情報共有・チーム保育)
保育の記録を取ることによって、十分な省察を行い、より専門性の高い保育実践につながるようにすべきだったが、継続して記録を取るができなかったことを改善したい。録画を保育の振り返りや情報共有に活用した。
 - 6 この地域で子育てをされている保護者の方々とそのこどもたちが、安心して心豊かな日々を送り、将来に渡ってこどもの人権が守られる、平和な環境を共に造るために何が必要かを見極め実践する。(子育て支援・広報・運営) A
昨今の子育て状況や地域の保護者のニーズを検証し、当園の教育方針を強く打ち出しつつも、地域につながる子育て支援の場所として用いられる取り組みを工夫した。
 4. 総合評価 B

保育者間、また、保護者との両方の関係において、良いコミュニケーションを取り、信頼関係を積み重ねることが、こ

どもにとっての成長に欠かせない環境であることを確信し、日々、笑顔で感謝をもって保育を続けることを大切にしてきた。それにより、こどもが自分らしく、探求心旺盛に園生活を送ることができたと共に、葛藤する姿を見せることもあった。そのような姿に丁寧に関わり添い、そこからこどもの持つ課題をアセスメントし、ご家庭と連携を取りながら向き合うようにしてきた。

しかし、業務の優先順位がうまくいかず、保育記録を継続的に取ることができなかったのも、活用することができていれば、よりの確かな判断と実践ができていたと思う。

今後は、一層保育者間の連携を深めるべく、記録の取り方を工夫することにより、こどもの言葉や態度や行動に一段と着目し、それをアセスメントすることから日々の保育実践を生み出すようにしていきたい。

5. 学校関係者評価委員の感想と意見

- ・こどもについて、時には伝えにくいであろう内容も、話してくれたので、家庭では気づかないこどもの特性などを知ることができ、家庭と一貫したルールでこどもに伝えることもできてよかった。
- ・友だちとのあそびの様子なども伝えてくれることによって、関係性を知ることができた。こども同士のトラブルが起きた時も、保育者も一緒に話し合うなどして解決しているので、こども自身も過ごしやすと思う。
- ・保育者の話から、兄弟でもその子その子に合った違う対応をしていることがわかって興味深かった。
- ・保育者同士が信頼関係を築き、こどもたちの間にも穏やかな人間関係を形成するために、保育中も一貫して強く言い合わず冷静な態度でいる、ということを聞き感心した。家庭でも取り入れたいと思う。
- ・毎日多忙な中で、保育記録が継続できないのは理解できる。週に1回にする、互いの記録にコメントをしてみる、アプリを取り入れる、保育についての会話をAIで処理する、など工夫をしてみてもどうか。
- ・写真閲覧について、もっと限定してもいいが、枚数が多い方が喜ばれる保護者もいるだろう。できるだけ、分類してもらえると助かる。
- ・来年度から、預かり保育の定員が増えて利用しやすくなるのが助かる。